



# 学校だより

令和5年2月15日 上田市立第二中学校 No.10

## 忍びざるの心 ～エリトゥウルル号と串本町の人々～ 一校長講話より一

1985年、日本人がイランイラク戦争に巻き込まれました。

「今から48時間後、イランの上空を飛行する全ての航空機を攻撃する。」

イラクフセイン大統領が無差別の爆撃を宣言します。各国が救援機を飛ばす中、日本は飛ばすことができず、イランで生活していた200人の日本人が戦地に取り残されてしまいます。しかし、そのときトルコのオザル首相が「日本人に恩返しをしなければいけない」と日本に救いの手を差し伸べます。オザル首相の言う「恩返し」。それは、100年前の明治時代の事件でした。

1890年、日本にオスマントルコから親善の軍艦エリトゥウルル号が来ます。明治天皇との謁見を終え、帰路の途中、エリトゥウルル号は、台風による嵐に遭遇し、和歌山県串本町の檜野沖で座礁沈没してしまいます。600人近い乗組員が夜9時過ぎの真っ暗な、荒れ狂う海に投げ出されます。

灯台守として働いていた2人が、大惨事に気づきます。彼らは、串本町の村人に呼びかけ、住民総出で、救助と生存者の介抱に当たります。真夜中の台風の海辺。村人はトルコの人の大きな体を抱え、40メートル近いがけをよじ登って救出し、全員で寝ずの救護に当たります。しかし、69人も遭難者に与えるための着るものも食べるものもすぐに底をついてしまいました。「俺たちはまだ我慢できる」村人は自分たちの食べるものや飼っていた鶏を供出して、遭難者に食べさせます。全てを投げ打ち、一心不乱になって救護に当りました。そんな姿は、乗組員の心に深く刻み込まれます。

およそ一ヵ月後、乗組員は、元気を取り戻しトルコに帰ります。乗組員は、日本での出来事を国王に報告します。国王は、日本人の行為に感銘を受け、「治療代を請求してほしい」と申し出ます。当時治療に当たった三人の医師の手紙が現在も残っています。

**初めから薬価施術料を請求するつもりはなく、ただ負傷者の痛ましい様子を見て、助けたい一心で行ったのであり、費用は遭難者へ寄付いたします。**

オスマン帝国は、トルコ共和国になりますが、このエリトゥウルル号の日本人の話は、国が変わっても教科書に掲載され、長くトルコの国民に伝えられてきました。

事件から95年たった1985年。今度は日本人がトルコの方に助けられます。オザル首相の要請を受け、トルコ航空の全ての機長が会議室に集められます。トルコ航空総裁が口を開きます。

「残り20時間30分。我々としては、救援機に一人でも多くのトルコ国民を乗せ、救出をする。そして今、首相からのもう一つの要請があった。もう一機、救援機を出す。但し、それはトルコ国民を助けるのではない。日本人だ。」会議室内にざわめきが起きます。オザル総裁の言葉は続きます。

「私たちトルコの民は、日本人に救われている。わが国はどのような犠牲を払っても、日本が助けを求めることがあれば、助けなければならない。それが恩に報いることだからだ。そして、まさにその時が来た。」オザル総裁は、息を継ぎ、改めて問いかけました。「テヘランまで飛んでくれるものはいるか」

そこにいた機長・客室乗務員の全ての手が挙がりました。

一方、空港では取り残された日本人250人だけでなく、さらに多くのトルコの方たちが搭乗を待ち、空港にあふれていました。2機の航空機で助けてもらえると思っていたトルコの人たちの「乗り切れないトルコの人がいるにもかかわらず、なぜ日本人の救出なのか」と怒号が響いています。トルコの大使館員がトルコの人たちに呼びかけます。

「我々の祖先であるトルコの英雄たちが、遠い異国の地の善意で無事祖国に帰ることができた。今度は私たちの番だ。」

トルコの人たちの人垣が崩れ、日本人のために通路が空けられます。その温かな心で開かれた搭乗通路を歩き、日本人は飛行機に乗り込みます。215人の日本人は間一髪のところまで救出されたのです。

トルコと日本の関係はまだ続きます。1999年8月17日。トルコ北西部をマグニチュード7.4の大地震が襲います。死者は2万人近くにもものぼりました。日本人はすぐにトルコに駆けつけ、救援だけでなく、倒壊した消防署まで建て直しました。今でもヤロワ市の消防署にはトルコの旗と一緒に日の丸が掲げられています。4年前に阪神淡路大震災を経験した日本は、多くのテントや仮設テントを送り、被災者を支援しました。

一体ここには、どんな心が働いているのでしょうか。エリトゥウルル号事件で救助に当たった浜野さんはこう語っていたといえます。「たとえ外国人でも自分たちの目の前で遭難したのだから、自分の友だちと同じように思って助けた。」また、日本人を救出したトルコ航空のオズデミル機長はこう話しています。「私が、行かなければ空爆で死んでしまう人々がいるのです。」

二人の言葉の共通しているのが、「他人の苦しみや痛さを、我が事として受け止め、放っておくことのできない心」です。これを日本人は古くから「忍びざるの心」「惻隱の心」と呼び、大切にしてきました。トルコと日本の二つの国の絆が物語るように、「忍びざるの心」は相手に伝わり、広がっていくものようです。そうした心で国と国とが結びつけば、もっと私たちの社会は平和な、温かなものになっていくのではないかと思います。私たち日本人の、大切にしたい「日本人らしい心」だと感じています。

## 先輩としての一步

## 中学校説明会

### 体験授業の様子

1月24日に、来年度入学予定の小学校6年生と保護者の方に来校いただき、中学校説明会が行われました。3年ぶりに実施できた体験授業では、先生の質問にうなずきながら聞き「知ってる!」「小学校でやった」などと元気よく反応する姿、そして何より不安の中にも中学校への期待や決意の感じられる真剣な眼差しが印象的でした。その後の全体説明会では、1年生が計画し準備練習をしてきた内容で、全員で気持ちをそろえて校歌を合唱したり、中学校生活の様子を小学校と比べながら明るくわかりやすく伝え、「みんなが学校をよりよくしたいと思っている」「新しいことも増え、楽しいところ」「僕たち先輩に何でも聞いてください」という心強いメッセージをおくっている1年生の姿に、1年間の成長と頼もしさを感じました。体験授業や説明会を通して、肌で二中の様子や先輩のよさに触れ、憧れを抱いて入学してくる新1年生との生活が今から楽しみです。



国語



理科



英語



技術



## 今年度最後の授業参観日

## ありがとうございました

1月31日の授業参観日では、各クラス前半と後半の半数ずつに分かれていただいていたの少ない時間でしたが、保護者の方に久しぶりに教室に入って学校の様子を見ていただきました。ご理解とご協力ありがとうございました。

廊下の掲示物にゆっくりと目を止めていかれる保護者の方々や、教室でクロムブックを使いながら学習する生徒の様子を覗き込みながら参観される保護者の方々など、1年間で成長した生徒の学習の姿とそれを微笑ましく見守る保護者の方の姿が校内にあふれていました。



## <今後の予定>

※今後、「新型コロナウイルス感染予防」に伴い、日程や内容が変更される可能性もあります。変更の場合はその都度ご連絡しますので何とぞご了承ください。

- 16日(木) 地区生徒会④ PTA 総委員会・評議員会
- 20日(月) 放課後学習教室 (16:30~17:30) 公立後期選抜志願受付~22日(水)
- 24日(金) 公立後期選抜志望変更受付~3月1日(水)
- 27日(月) 放課後学習教室 最終 (16:30~17:30)
- 3月 3日(金) 同窓会入会式
- 7日(火) 公立後期選抜① 1, 2年クラスマッチ
- 8日(水) 公立後期選抜②
- 11日(土) 地区活動優先日 ノー部活デー
- 13日(月) 3年生を送る会
- 14日(火) 3学期終業式
- 15日(水) 卒業証書授与式
- 16日(木) 年度末休業

### スクールカウンセラー来校日

<2月~3月>

2月27日(月)

3月9日(木) 今年度最終

時間 9:45~16:00

\*相談の希望(生徒・保護者)がありましたら、担任または教頭までお申し出ください。